

湯浅快拳3位

W杯スキー

男子回転

【マドンナディカンピリオ(イタリア)共同】18日、イタリアのマドンナディカンピリオで男子回転第3戦を行い、湯浅直樹(スポーツアルペン)が2回の合計1分44秒78で3位に入り、W杯で自身初の表彰台に立った。アルペン男子の日本勢の表彰台は、2006年3月に回転で佐々木明(ICI石井スポーツ)が2位となつて以来で、岡部哲也、木村公宣、佐々木に続いて4人目の快拳。湯浅は1回目で首位と2秒06差の26位と出遅れたが、2回目で2番目に速い50秒65で滑り、一気に順位を上げた。佐々木は1回目です中棄権した。2回とも最速だったマルセル・ヒルシャー(オーストリア)が合計1分42秒50で今季2勝目となる通算14勝目を挙げた。フェリックス・ノイロイター(ドイツ)が1秒67差の2位で続いた。

腰痛抱え極限の集中力

日本勢4人目の表彰台

旗門ぎりぎりを攻め、湯浅が硬くしまった急斜面を一気に滑り降りてきた。「ラストの6旗門から何も覚えていない」。コースアウトしそうなスピードで前のめりにゴールすると、そのまま転倒し、動けなくなった。研ぎ澄ました集中力で腰痛を抑え込み、快拳を成し遂げた。

2011年の世界選手権は6位で、昨季はW杯で5位が2度。こつこつと着実に力を蓄えてきた29歳のレーサーは通算83度目のW杯で初の表彰台を「奇跡ではなく積み重ねの一つ」と言った。

1回目26位で、5番目にスタートした2回目は「練習の滑りがうまく出た」という。結果的に2回目は2位のタイムで残り2人まで電光掲示板の一番上に名前が残った。

今季開幕直前に出た腰痛が何度も再発し、この大会の前日も自力で歩くことがままならなかった。それでも「滑っている間は痛くない。集中力が極限の状態なので」という。1回目の後はスタ

ップ2人に抱えられないと動けない状態だったが、約2時間半後の2回目に驚異的な滑りを披露した。スキー板をつえにして表彰台に上った湯浅

を、日本のライトナー・チーフコーチは「こんなタフな選手は世界中にいない」と称賛した。「好成績が出るほど、自分の滑りに自信がつくし、動きも良くなる。この勢いで上がっていきたい」と湯浅。来年2月の世界選手権、来季のソチ五輪に大きな弾みとなった。【共同】



自己最高の3位に入った湯浅の1回目W杯